

所在地：目黒区東が丘 1 - 20 - 1 東急東横線 都立大学駅 徒歩 30 分

学校名： 東根小学校		作成年月日：H.10.06.06	調査日：H.16.07/16.7/23
施設タイプ		地上シート型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・キショウブの繁茂が著しく、水面が確認できない程となったため、全体を暗くしている。キショウブの全面的な除去が必要となっている。 ・水中にはオオカナダモやアオウキクサが生育している。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・メダカは確認された。6/25 ・メダカが見あたらず、ボウフラが確認された。メダカの早急な放飼が必要となっている。(教頭に伝えた) 7/23 	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・白い濁りはなくなっているが、日差しが入らないため、水質の悪化の危険性がある。6/25 ・給水は、理科委員会が行っている。7/23 	
	周 辺 環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・去年は周辺部のフェンスのつる植物などが繁茂し、陰になりやすかったが、今年は適切に管理されている。ただし、道路側のエリアは裸地化しており、環境の多様性が失われている。 	
	土 壌	<ul style="list-style-type: none"> ・池の周囲の土が池内に落ち込み、水深が浅くなっており、早急の泥上げが必要になっている。 ・水深は枯れ葉が堆積しているため依然として 20cm 程度である。 	
活動状況	管 理 体 制	<ul style="list-style-type: none"> ・理科委員会で管理している。 	
	管 理 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・7月にはキショウブの除去が十分行われ、池全体の新しい環境づくりが始まっている。ただし、キショウブの根が残っており、継続した抑制が必要になっている。 	
	利 用 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察は理科委員会によって行われている。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・理科委員会の活動の中でも専門担当を置く考えがある。 	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 10.06.06	池の作成	飼育委員会
11.09.04	児童勉強会	4年生
12.	観察	飼育委員会
13.	観察	飼育委員会
14.04.	日当たりを良くするために、フジを剪定した	主事
06.	水面を確保するため草取りを行った。	飼育委員会
15.	今年度の新たな管理作業の活動予定はたてられていない。	飼育委員会
16.07	キショウブの除去を行った。	主事
.08	草刈りを行った。	理科委員会

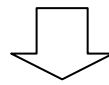
調査時（平成15年6月）



南側のキショウブの繁茂が著しく、池全体が暗くなっている。



透明度はあるが、白い濁りが強くなり、水質維持のためには、日差しが差し込むようにキショウブを全面的に除去する必要がある。



調査時（平成16年6月）



池を覆い隠すようにキショウブが繁茂し、水面が確認できない状況とである。



水際にはセキショウ、セリが生育しており、生育区域の確保が必要である。

調査時（平成16年7月）

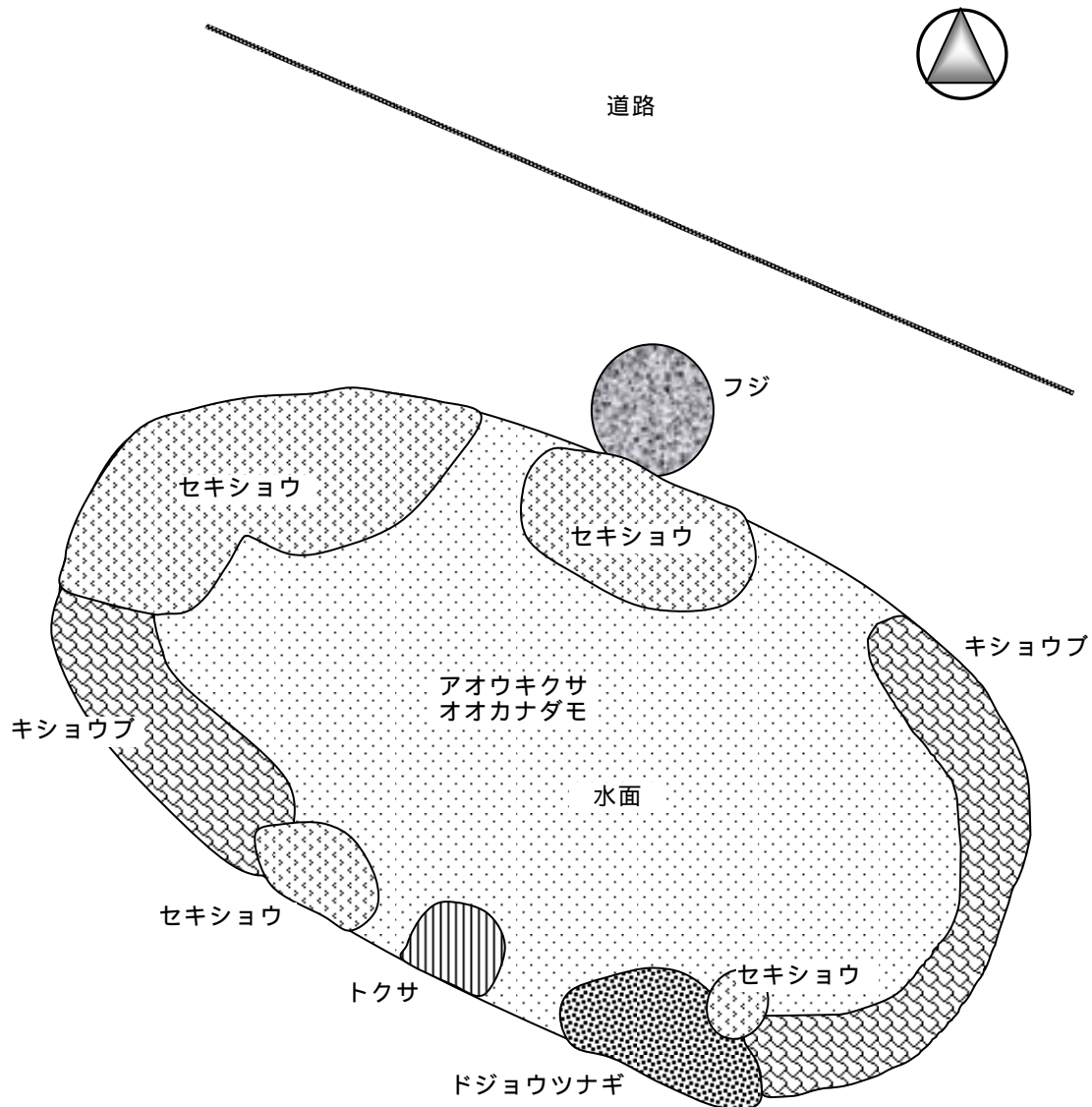


水際のキショウブをほとんど除去する整理を行ったが、根が残され萌芽が始まっている。



水面に日差しが入ることにより、水面の透明度が高まっている。

<平成14年度>



ビオトープ池はフジ棚の下にあるが、フジの剪定が行われており、日当たりは良好で、水質、植物の生育も良好である。ただし、キショウブやセキショウなど繁茂している種は限られ、一部を除去して多様な植物環境を創出する必要がある。

特に、キショウブは植物体が強壯で水際への子供のアプローチを妨げている。さらにフジ棚があるため、重要となる横からの日当たりが遮られており、十分な除去が必要になっている。

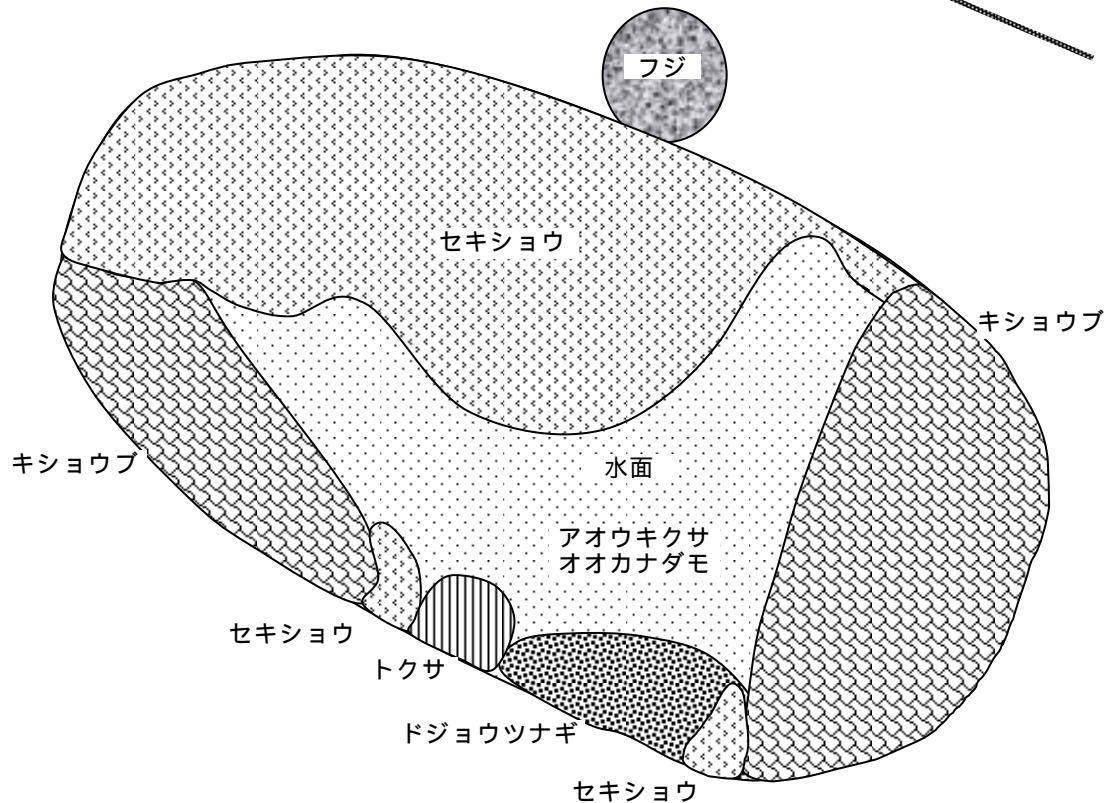
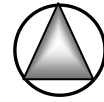
水中にはオオカナダモがみられるが強い繁茂は見られず、この状態を維持することが望ましい。アオウキクサについても現状では問題ないが、増えすぎるようであれば取り除く必要がある。

東根小学校

<平成15年度>

うさぎ小屋

道路



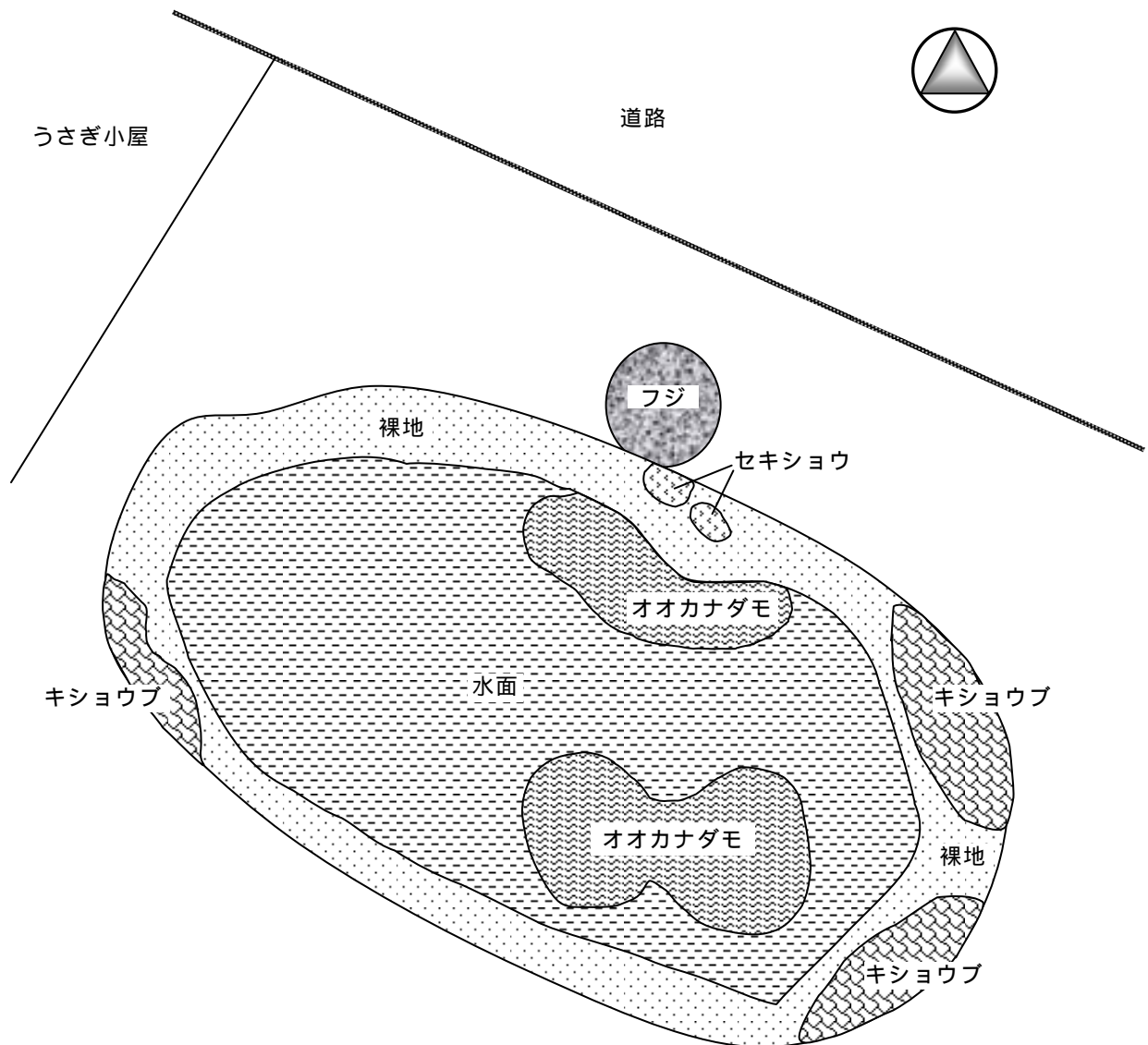
フジの剪定は適切に行われているが、池周囲のキショウブ、セキショウの繁茂が著しく、池全体を暗くして水質の悪化を引き起こしていると考えられる。

特に、背の高いキショウブは児童の池への視線を妨げており、観察活動をしにくくしているため、全面的な除去を行い、草の高さの低いセリやミゾソバなどの多様な草本環境へ転換する必要がある。また、南側の金網にはつる植物がからみ、日当たりを遮っているため、同時に除去する必要がある。

池の北側にあるフジの根本部分にはヤブガラシが繁茂を始めているので、早い時期に取り除くことが望ましい。

水中にはオオカナダモがみられるが強い繁茂は見られず、水質維持のためにはこの状態を維持することが望ましい。

<平成16年度>



フジの剪定は適切に行われているが、もう少し水面に陽が当たるように工夫する必要がある。強く繁茂していたキシヨウブ、セキシヨウは抑制されたが、土中に残った根茎からの発芽がみられるので、特にキシヨウブに関しては定期的に駆除する必要がある。また、トクサやドジョウツナギなども無くなっているので、ミゾソバやセリなどの湿地の移植による回復が望まれる。(宮前小学校からの移植可能)

水中にはオオカナダモがみられるが強い繁茂はみられず、水質維持のためにはこの状態を維持することが望ましい。7月時点では、少し白濁がみられ、メダカが姿を消したため、ボウフラが発生しているので、早急なメダカの放流が必要となっている。

